

令和10年度の各小中学校の児童生徒数・学級数予測と通学距離

学校名	10年度												児童生徒数計	学級数計	地区面積	通学最長距離
	6年生	学級数	5年生	学級数	4年生	学級数	3年生	学級数	2年生	学級数	1年生	学級数				
東岐波小	92	3	88	3	89	3	73	3	66	2	58	2	466	16	13.59	4.1
西岐波小	94	3	107	4	87	3	78	3	71	3	65	2	502	18	7.23	3.8
恩田小	114	4	104	3	125	4	79	3	117	4	87	3	626	21	4.16	2.1
上宇部小	111	4	76	3	91	3	100	3	100	3	91	3	569	19	5.22	3.3
岬小	27	1	16	1	20	1	16	1	19	1	15	1	113	6	1.73	1.4
見初小	11	1	15	1	13	1	13	1	12	1	7	1	71	6	2.02	1.2
琴芝小	90	3	82	3	78	3	61	2	49	2	62	2	422	15	3.21	3.9
神原小	31	1	28	1	29	1	25	1	25	1	28	1	166	6	1.32	1.8
新川小	63	2	63	2	60	2	50	2	47	2	55	2	338	12	4.71	2.4
鵜ノ島小	12	1	19	1	18	1	11	1	12	1	11	1	83	6	2.35	1.8
藤山小	79	3	75	3	75	3	64	2	81	3	65	2	439	16	7.90	3.0
厚南小	121	4	83	3	87	3	96	3	95	3	89	3	571	19	3.65	2.7
原小	38	2	51	2	44	2	51	2	49	2	65	2	298	12	7.98	3.2
厚東小	8	1	11	1	9	1	4	1	6	1	8	1	46	6	24.33	7.7
二俣瀬小	4		3	1	4		3	1	0		1	1	15	3	30.33	10.8
小野小	4		0	1	0		1	1	2		0	1	7	3	57.62	9.0
常盤小	73	3	72	3	63	2	98	3	65	2	81	3	452	16	4.91	2.7
小羽山小	37	2	46	2	31	1	37	2	43	2	36	2	230	11	2.29	2.4
西宇部小	29	1	49	2	34	1	35	1	31	1	30	1	208	7	5.30	4.1
川上小	62	2	50	2	48	2	46	2	32	1	42	2	280	11	15.62	6.0
黒石小	118	4	101	3	120	4	111	4	124	4	130	4	704	23	5.20	3.3
吉部小	4		2	1	1		3	1	2		0	1	12	3	30.32	7.1
万倉小	3		4	1	4		2	1	3		1	1	17	3	30.40	7.6
船木小	27	1	15	1	22	1	14	1	14	1	16	1	108	6	16.30	4.5
	1,252	46	1,160	48	1,152	42	1,071	45	1,065	40	1,043	43	6,743	264	287.69	
東岐波中							102	3	82	3	86	3	270	9		4.4
西岐波中							158	5	148	5	168	5	474	15		4.4
常盤中							178	6	186	6	184	6	548	18		4.0
上宇部中							163	5	151	5	142	5	456	15		3.7
神原中							65	2	53	2	63	2	181	6		2.3
桃山中							113	4	131	4	105	3	349	11		3.5
藤山中							105	3	90	3	111	4	306	10		3.5
厚南中							140	4	153	5	148	5	441	14		4.1
川上中							72	3	60	2	67	2	199	7		6.0
黒石中							171	5	147	5	176	6	494	16		4.2
楠中							26	1	31	1	30	1	87	3		22.1
厚東川中							20	1	8	1	17	1	45	3		22.0
							1,313	42	1,240	42	1,297	43	3,850	127		

※令和10年度の学級数・児童生徒数は住民基本台帳からの予測値（学級数は通常学級のみ）

学校選択制及び私立中学校への就学は考慮していない。

※通学最長距離は、最も遠い隣接校区までの直線距離×1.5倍（工場地帯を除く）

施設の状況（令和4年度）

資料 2

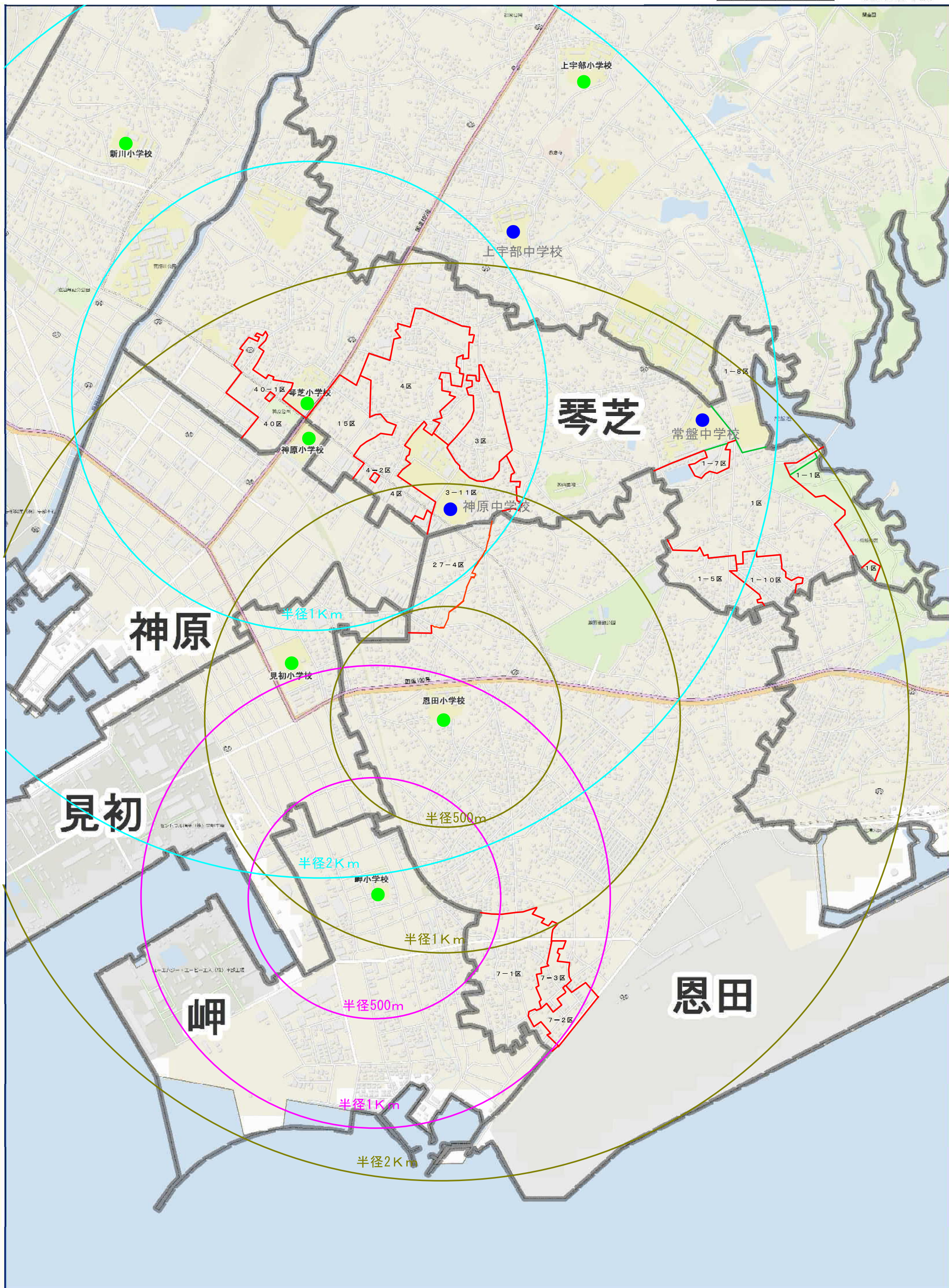
小学校名（建築年）				経過年数	中学校名（建築年）		
藤山① (S35~39)				築 62 年 ↵ 築 57 年			
神原 (S38~42)		鶉ノ島 (S38~41)			桃山① (S36~40)	厚南① (S36~38)	
恩田① (S41~43)	新川① (S43. 44)	原① (S43)		築 56 年 ↵ 築 47 年	常盤① (S44. 45)		
藤山② (S49. 53. 55)					西岐波① (S47~49)	東岐波① (S48. 50)	
上字部① (S51~54)	常盤 (S52. 53. 55)	原② (S53)	東岐波① (S52)	築 46 年 ↵ 築 37 年	楠 (S53)	藤山① (S53)	厚南② (S51. 57)
	小羽山 (S55~59)	西字部① (S55~56)	厚東 (S54)		西岐波② (S54)		
恩田② (S59. 60)	見初 (S57・58)	上字部② (S58~59)	万倉 (S57)		常盤② (S58. 59)	東岐波② (S57)	
		東岐波② (S60~62)	吉部 (S59)				
川上① (S63~H元)				築 36 年 ↵ 築 27 年	藤山② (S61. 62)		
西字部② (H元)					東岐波③ (H4)	神原 (H5. 7. 8)	桃山② (H3. 4)
		琴芝 (H4~7)	黒石 (H3)				
厚南 (H10~12)	黒石 (H6)	二俣瀬 (H10~11)	小野 (H9)	築 26 年 ↵ 築 17 年	川上 (H元. 2)		
					上字部 (H14~17)		
川上② (H17)				築 16 年 ↵ 築 7 年	西岐波 (H18~20)		
新川② (H27)					厚東川 (H23. 24)		
岬 (H30)				築 6 年 ↵			

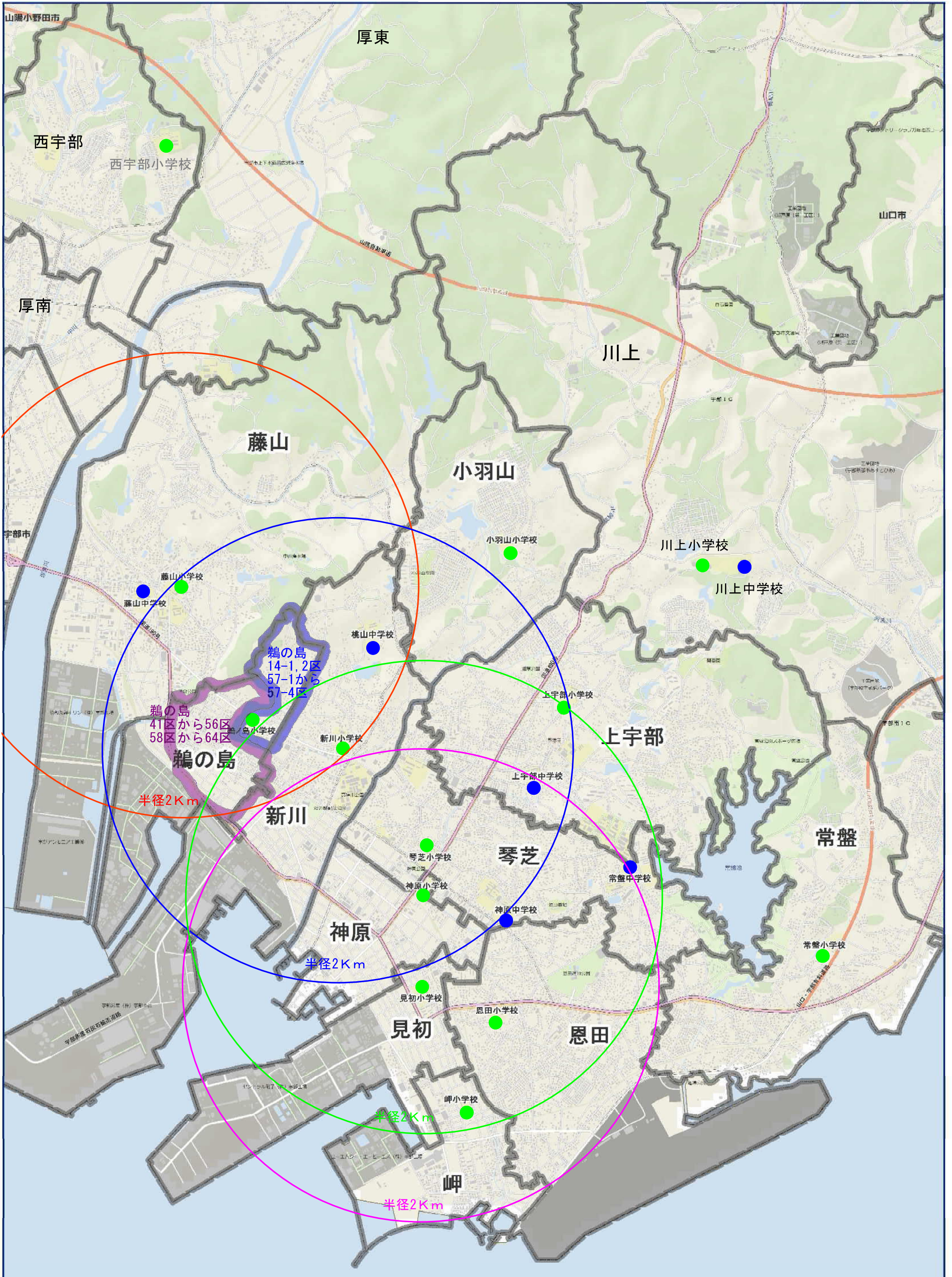
■小学校

選択校(指定校)		29年度 (現6年生)	30年度 (現5年生)	31年度 (現4年生)	2年度 (現3年生)	3年度 (現2年生)	4年度 (現1年生)	合計
西岐波小(川上小) (川上12区)	選択者数	0	0	0	0	0	0	0
	対象者数	6	11	12	8	5	12	54
	選択割合(%)	0	0	0	0	0	0	0
恩田小(琴芝小) (琴芝1,1-5.1-10)	選択者数	7	11	9	14	10	15	66
	対象者数	14	16	13	15	14	16	88
	選択割合(%)	50.0	68.8	69.2	93.3	71.4	93.8	75.0
岬小(恩田小) (恩田7-1,7-2,7-3)	選択者数	2	0	0	0	1	0	2
	対象者数	5	2	2	4	2	2	17
	選択割合(%)	40.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	11.8
神原小(琴芝小) (琴芝3,3-11,4,4-2,15,40-1)	選択者数	7	13	10	16	11	10	67
	対象者数	14	20	17	20	17	12	100
	選択割合(%)	50.0	65.0	58.8	80.0	64.7	83.3	67.0
神原小(恩田小) (恩田27-4)	選択者数	2	1	2	3	1	0	9
	対象者数	4	3	5	4	1	2	19
	選択割合(%)	50.0	33.3	40.0	75.0	100.0	0.0	47.4
新川小(鶺ノ島小) (鶺ノ島14-1,2,57-1,57-1-1,1,57-2,3,4)	選択者数	2	3	0	1	2	2	10
	対象者数	6	7	7	4	5	2	31
	選択割合(%)	33.3	42.9	0.0	25.0	40.0	100.0	32.3
常盤小(琴芝小) (琴芝1,1-5.1-10)	選択者数	1	1	2	1	1	1	4
	対象者数	14	16	13	15	14	16	88
	選択割合(%)	7.1	6.3	15.4	6.7	7.1	6.3	4.5
小羽山小(新川小) (新川15-1)	選択者数	0	0	0	0	1	0	1
	対象者数	7	2	2	11	3	5	30
	選択割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	3.3
小羽山小(藤山小) (藤山27)	選択者数	0	0	0	0	0	0	0
	対象者数	0	0	0	0	0	0	0
	選択割合(%)	0	0	0	0	0	0	0
船木小(万倉小) (宗方、黒五郎)	選択者数	0	1	0	0	0	0	1
	対象者数	0	1	2	0	1	0	4
	選択割合(%)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0

■中学校

選択校(指定校)				2年度 (現3年生)	3年度 (現2年生)	4年度 (現1年生)	合計
藤山中(桃山中) (鶺ノ島14-1,2,57-1,57-1-1,1,57-2,3,4)	選択者数			10	4	3	17
	対象者数			13	6	5	24
	選択割合(%)			76.9	66.7	60.0	70.8





◆児童生徒に最適な教育環境を提供するための、

学校のあるべき姿と実現に向けた取組

(1) 学校のあるべき姿

児童・生徒が、多様な考え方に触れ、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける集団規模と安心・安全な教育環境のもとで、地域と連携を図りながら、義務教育9年間を見通したつながりのある教育を提供することにより、子どもたちの確かな学び（健やかな成長）を保障できる学校

【理想形】

子どもの社会性を育むことが出来る集団規模を有し、校区の中心に位置する同一敷地内に小中学校がある義務教育学校

(2) 現状(問題点)は省略

(3) あるべき姿の実現に向けた取組

■小中一貫教育の推進

- ①小中ブロックを見直し、進学先が分かれる小学校の解消を図る。(将来的に学校選択制は廃止)
- ②小中学校の併設が可能な敷地条件等を満たす小中学校では義務教育学校の設置も検討。

■集団規模の確保

- ①子どもの就学環境(通学の距離や時間など)の実情を踏まえた、一定の集団規模を確保していくための適正規模の基準を定める。
- ②適正規模の基準をもとに、通学区域の変更や適正配置を検討していく。

(4) あるべき姿の実現に向けた 具体的な取組 (案)

■学級規模の基準

- ①市街地地域 (北部地域以外)
 - ・小学校… 12学級以上 (1学年2学級以上)
 - ・中学校… 6学級以上 (1学年2学級以上)
- ②北部地域
 - ・小学校… 6学級以上 (1学年1学級以上)
 - ・中学校… 3学級以上 (1学年1学級以上)

■学校配置の基準

- ・小学校の通学距離・・・概ね4Km以内
- ・中学校の通学距離・・・概ね6Km以内

■適正規模・適正配置計画期間

- ・令和6年度～令和15年度 (10年間)

(4) あるべき姿の実現に向けた 具体的な取組 (案)

■具体的な進め方

- ・「通学区域の見直し」と「学校の統合」等の方法により、各学校や地域の実情に応じて適切に取り組んでいく。
- ・計画期間は10年間とし、児童生徒数の将来推計から学級規模・学校配置基準に基づき、検討対象校を決定していく。
- ・小中一貫教育を一層推進するため、小中ブロックを見直すとともに、学校選択制については将来的に廃止していく。
- ・学校施設の改築・改修時期も見据えながら、老朽化が進んでいる学校や、半径4キロ以内に複数の学校が集中している地域の学校から優先的に取り組んでいく。
- ・通学距離が配置基準を大幅に超えている北部地域の学校については、ICT等を活用した他校との交流や地域と連携した教育を推進することで当面の間、現在の学校を維持していく。
- ・北部地域の学校について、今後の児童数の推移を注視した結果、教育環境の維持が困難と認められる場合には適正配置を進めていく。

(4) あるべき姿の実現に向けた 具体的な取組（案）

■検討対象校

【市街地地域】

- ・岬小・見初小・神原小・鶉ノ島小

【北部地域】

- ・厚東小・二俣瀬小・小野小・船木小・万倉小・吉部小

令和10年度の学級数と児童・生徒数予測

小学校名（児童数）					校数	学級数	校数	中学校名（生徒数）		
複式学級	小野 (7)	万倉 (17)	二俣瀬 (15)	吉部 (12)	4	3	2	厚東川 (45)	楠 (87)	1学級/学年
					0	4	0			
単式学級					0	5	0			
神原 (166)	岬 (113)	船木 (108)	鶴ノ島 (83)	見初 (71)	厚東 (46)	6	6	1	神原 (181)	1～2学級/学年
					西字部 (208)	1	7	0	川上 (199)	
1～2学級/学年					0	8	1			2～3学級/学年
						0	9	1	東岐波 (270)	
						0	10	0	藤山 (306)	
				川上 (280)	小羽山 (230)	2	11	1	桃山 (349)	3～4学級/学年
				新川 (338)	原 (298)	2	12	0		
2～3学級/学年					0	13	3			4～5学級/学年
						0	14	0	厚南 (441)	
					琴芝 (422)	1	15	1	上字部 (456)	西岐波 (474)
				藤山 (439)	東岐波 (466)	常盤 (452)	3	16	1	黒石 (494)
5～6学級/学年					0	17	1			
					西岐波 (502)	1	18	0	常盤 (548)	
3～4学級/学年										
				上字部 (569)	厚南 (571)	2	19	0		
						0	20	0		
				恩田 (626)		1	21	0		
						0	22	0		
					黒石 (704)	1	23	0		

令和4年度の学級数と児童・生徒数

小学校名（児童数）					校数	学級数	校数	中学校名（生徒数）				
複式学級	小野 (18)	万倉 (28)	二俣瀬 (25)	吉部 (22)	4	3	2	厚東川 (44)	楠 (89)	1学級/学年		
					0	4	0					
単式学級					0	5	0			1～2学級/学年		
岬 (154)	船木 (127)	鶴ノ島 (128)	見初 (104)	厚東 (73)	5	6	1	神原 (198)				
1～2学級/学年					0	7	0			2～3学級/学年		
					0	8	1	川上 (230)				
					0	9	0					
					0	10	1	東岐波 (293)		3～4学級/学年		
					小羽山 (301)	1	11	2	藤山 (328)	桃山 (326)		
				西字部 (274)	神原 (334)	琴芝 (280)	原 (291)	4	12	2	厚南 (382)	上字部 (403)
2～3学級/学年											4～5学級/学年	
					川上 (417)	1	13	2	黒石 (430)	西岐波 (435)		
						0	14	0				
						0	15	0			5～6学級/学年	
					新川 (469)	1	16	0				
					常盤 (449)	1	17	1	常盤 (529)			
					厚南 (578)	藤山 (520)	2	18	0			
3～4学級/学年												
					東岐波 (556)	1	19	0				
					上字部 (614)	1	20	0				
					黒石 (681)	1	21	0				
					西岐波 (678)	1	22	0				
					恩田 (712)	1	23	0				

学校の規模や配置に関するアンケート調査について

【参考資料】

1 実施期間 令和4年6月24日（金）～7月10日（日）

2 実施方法 Webによるアンケート

3 対象者 小中学校児童生徒及び未就学児の保護者
学校運営協議会委員（教職員・保護者除く）

小学校5年生及び中学校2年生

うべ未来モニター登録者

4 回答率

■一般（小中学生及び未就学児の保護者、学校運営協議会委員）

回答者数 2,761人(配付数13,117)

回答率 21.0%

(同一世帯が2割から3割程度あることを勘案すると26%～30%)

■うべ未来モニター

回答者数 401件（登録者数868人）

回答率 46.2%

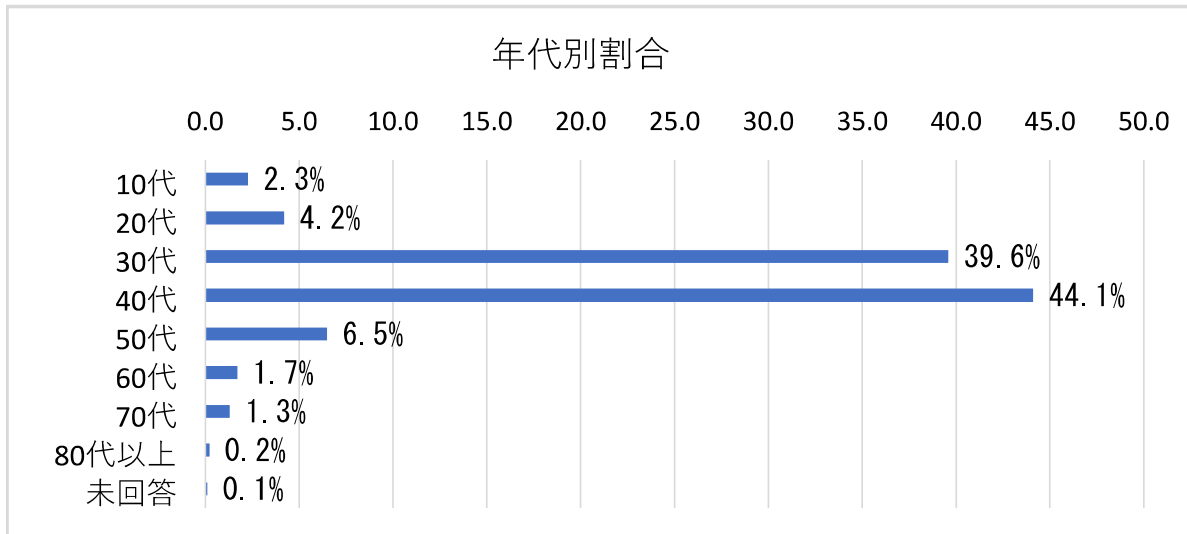
■児童生徒（小学5年生及び中学2年生）

電子申請1,898件（配付数2,523）

回答率 75.2%

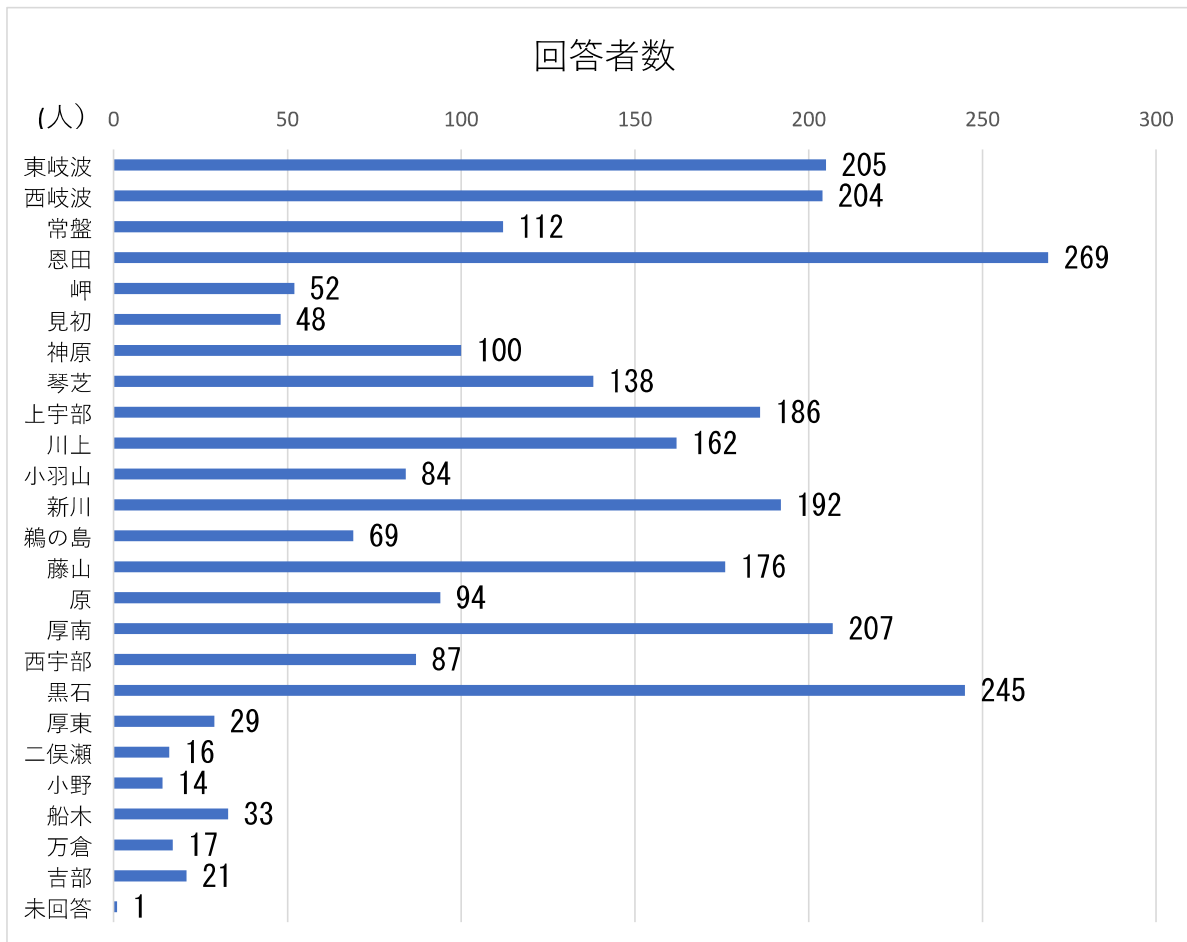
■一般回答（小中学生及び未就学児の保護者、学校運営協議会委員）

問1 あなたの年齢区分をお答えください。

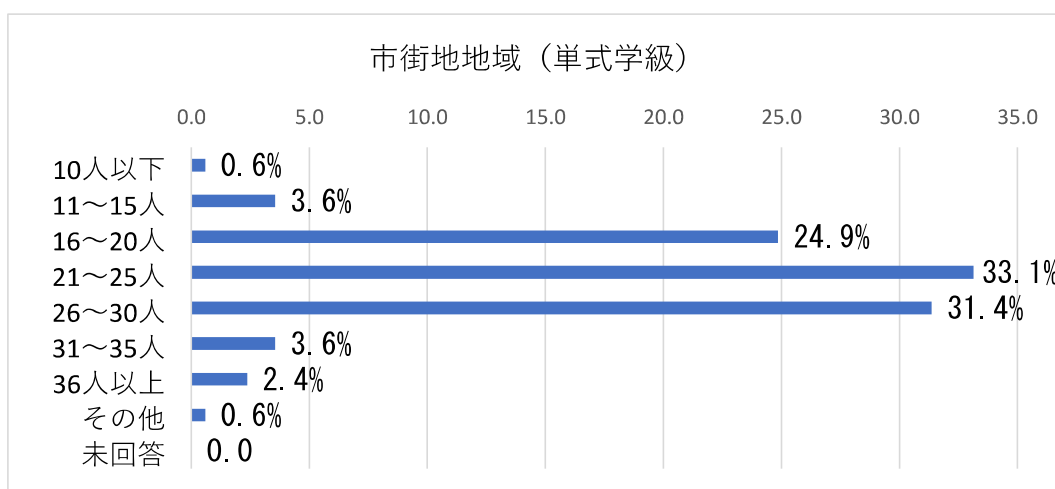
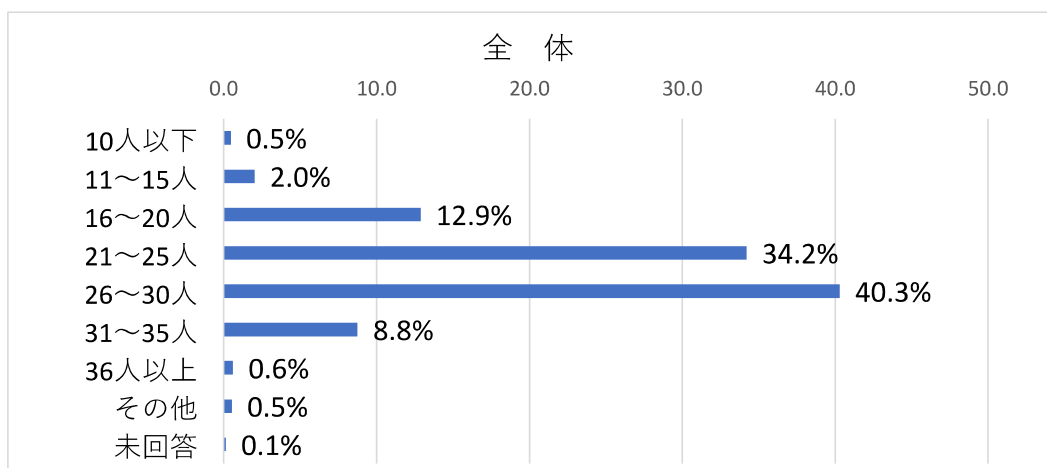


年代別割合では、40代が44.1%、30代が39.6%で30代、40代合わせると83.7%となっている。

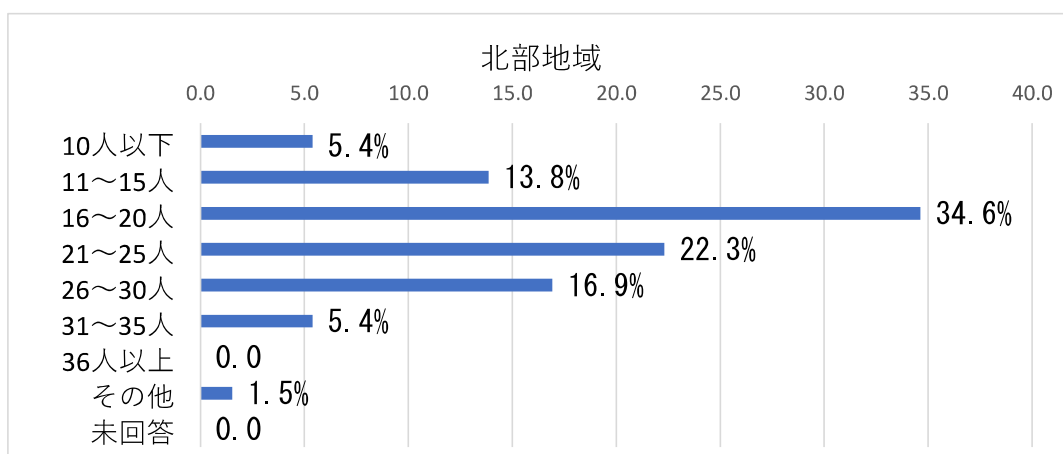
問2 あなたの居住する地区（校区）をお答えください。



問3 あなたは、小学校1学級の児童数としては、何人くらいが望ましいと思いますか。



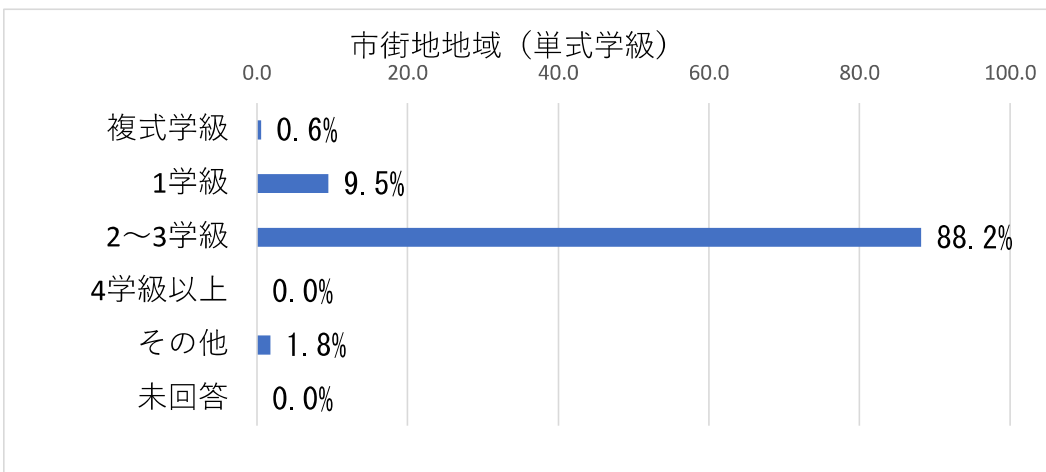
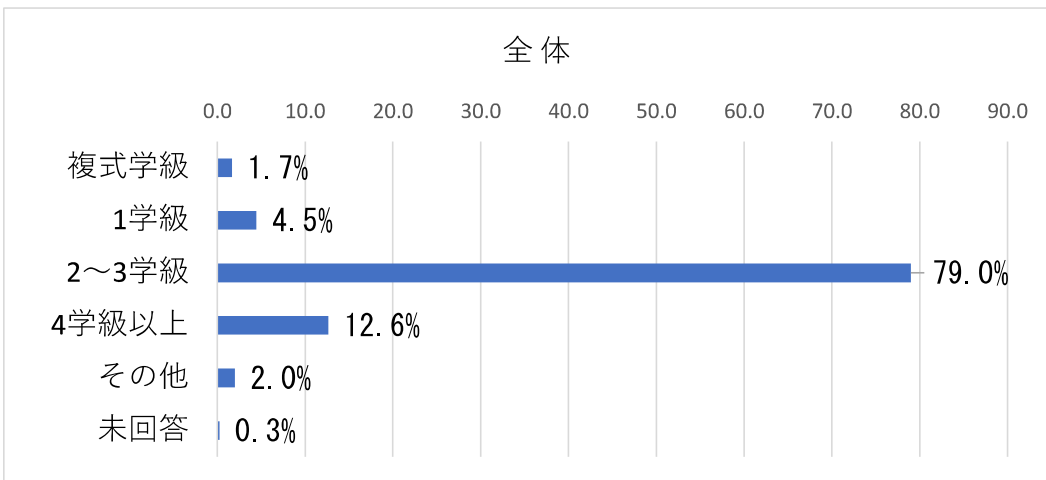
※単式学級の学校：岬・見初・鶴ノ島



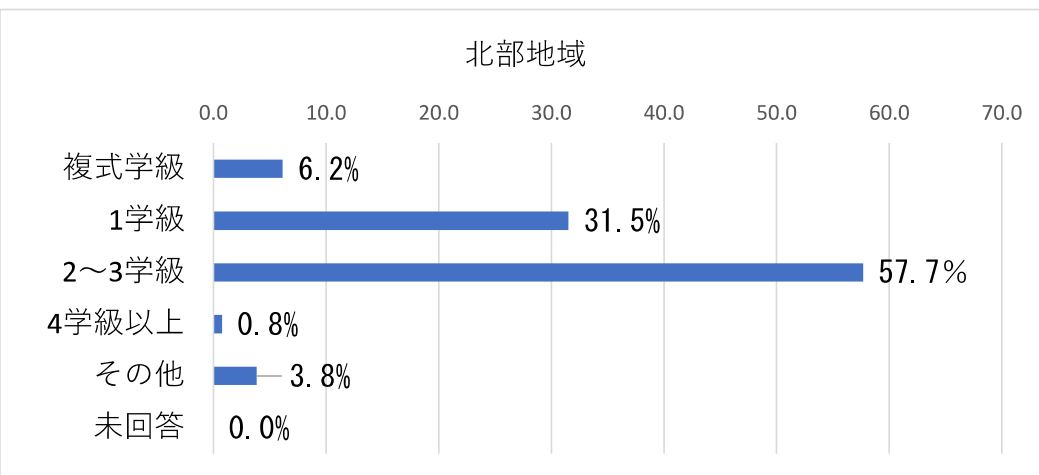
※北部地域：厚東・二俣瀬・小野・船木・万倉・吉部

小学校1学級の児童数として全体では、26～30人が40.3%と最も多く、次に21～25人の34.2%となり、単式学級の学校のある市街地地域では21～25人、26～30人が30%程度の割合であり、北部地域では16～20人が34.6%となっている。

問4 小学校の1学年の学級の構成としてはどれくらいが適切だと思いますか。



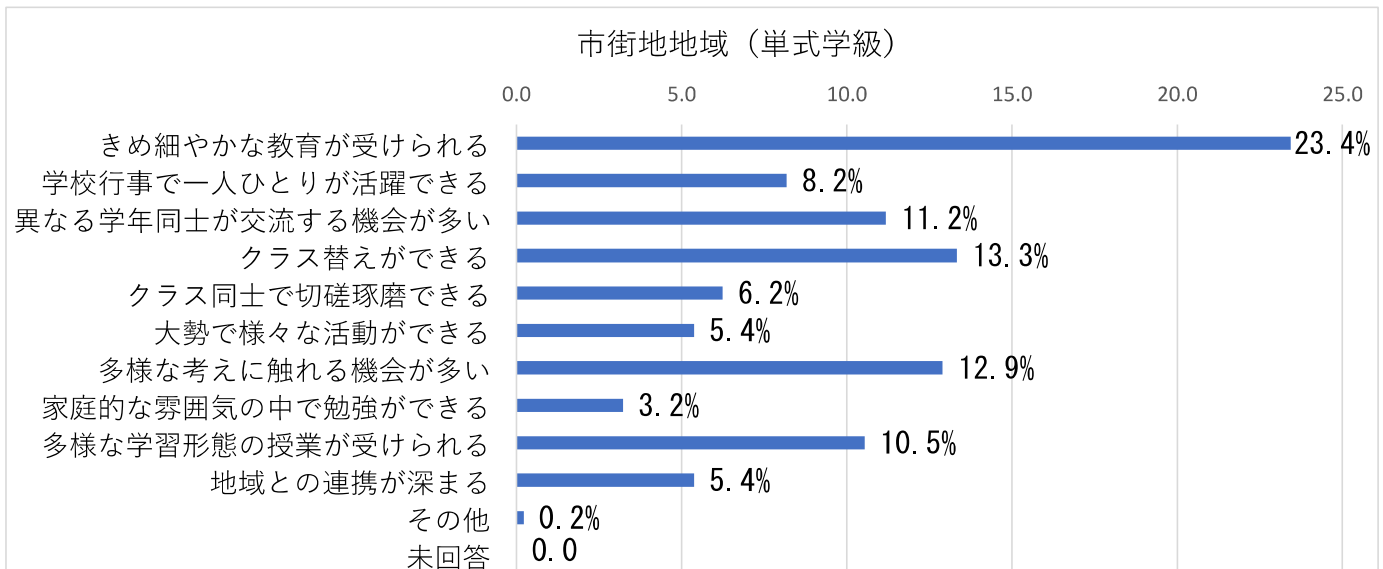
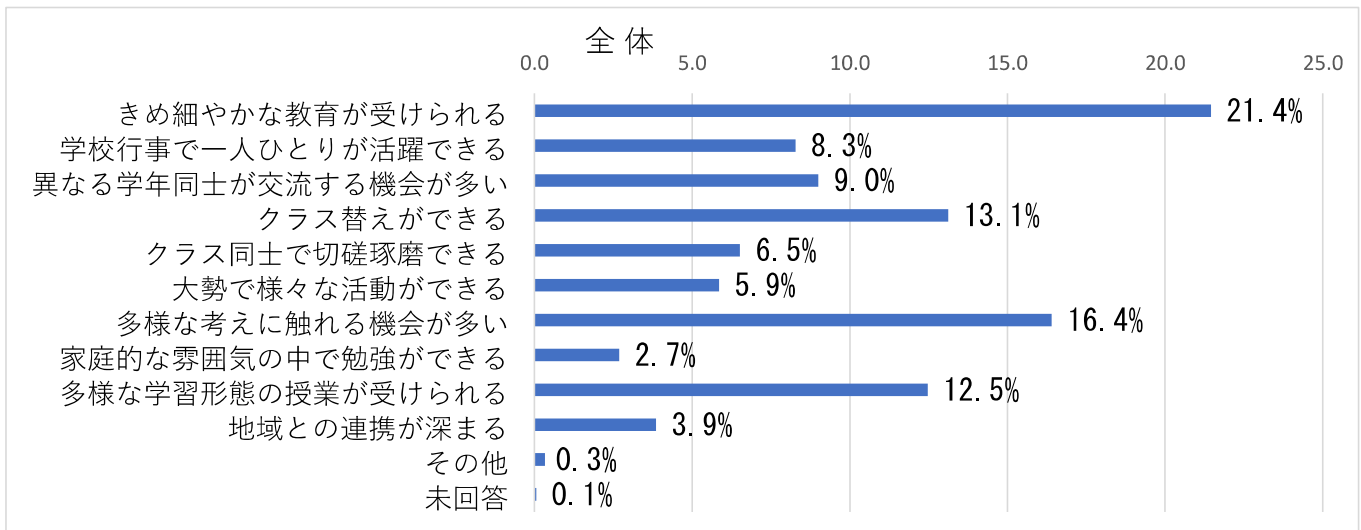
※単式学級の学校：岬・見初・鵜ノ島



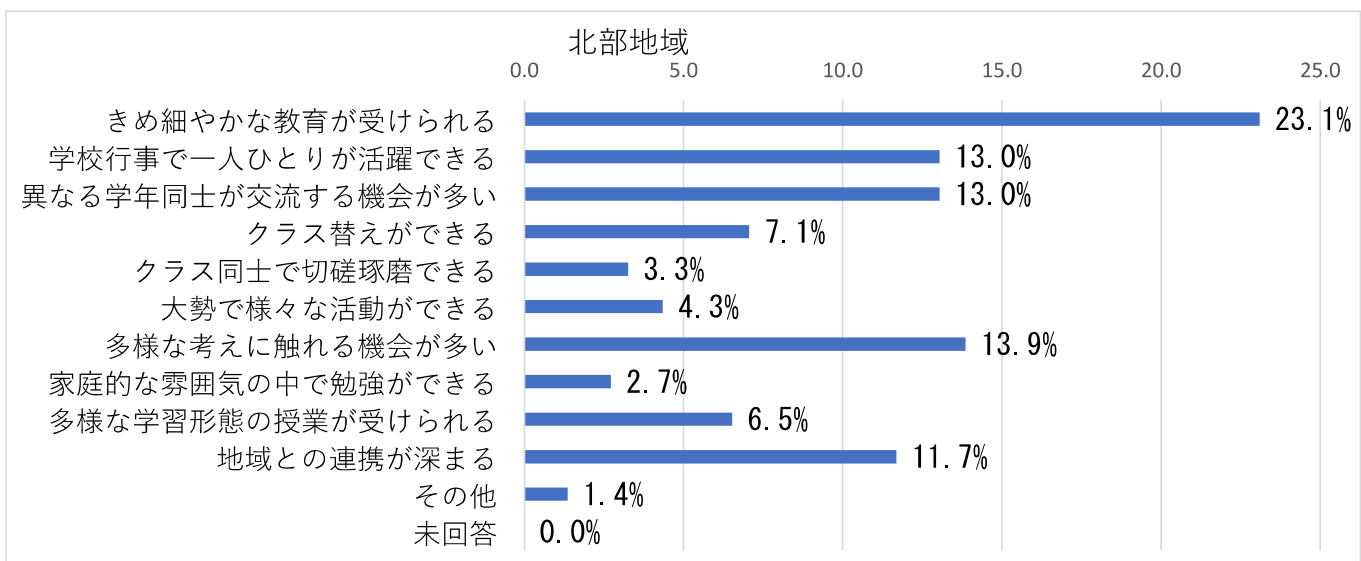
※北部地域：厚東・二俣瀬・小野・船木・万倉・吉部

小学校の1学年の学級構成としては、全体では2~3学級が79%と最も多く、単式学級の学校のある市街地地域では、その割合が更に高く88.2%。北部地域では57.7%となり、全体や小規模校のある地域いずれにおいても2~3学級の割合が高い結果となっている。

問5 小学校の規模を考えるうえで、あなたが大切だと思う点をお答えください(3つ以内に○)



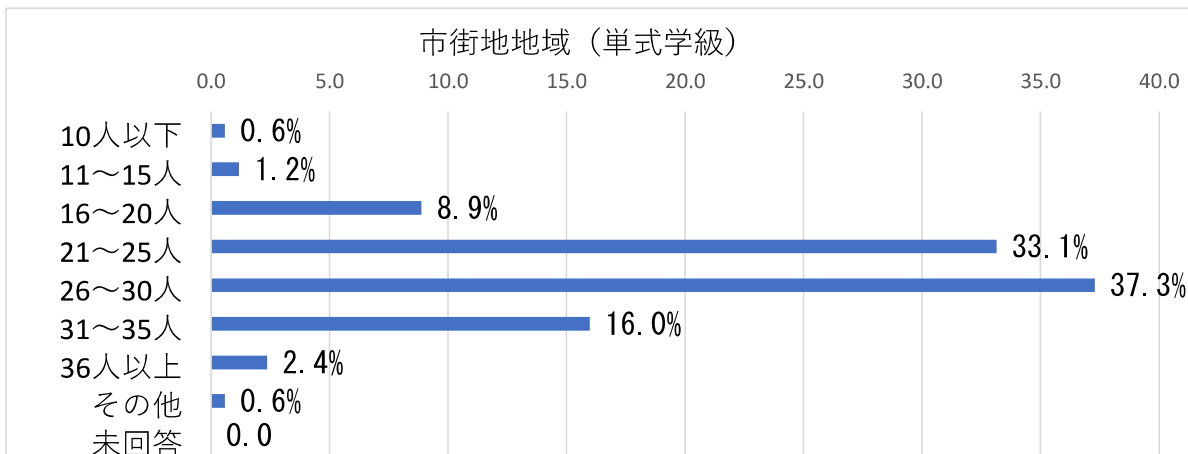
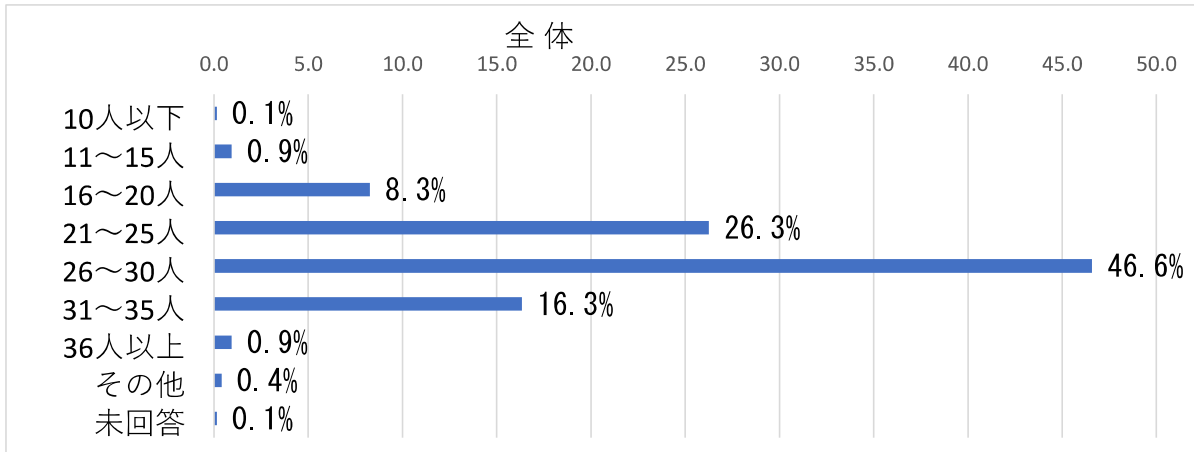
※単式学級の学校：岬・見初・鶴ノ島



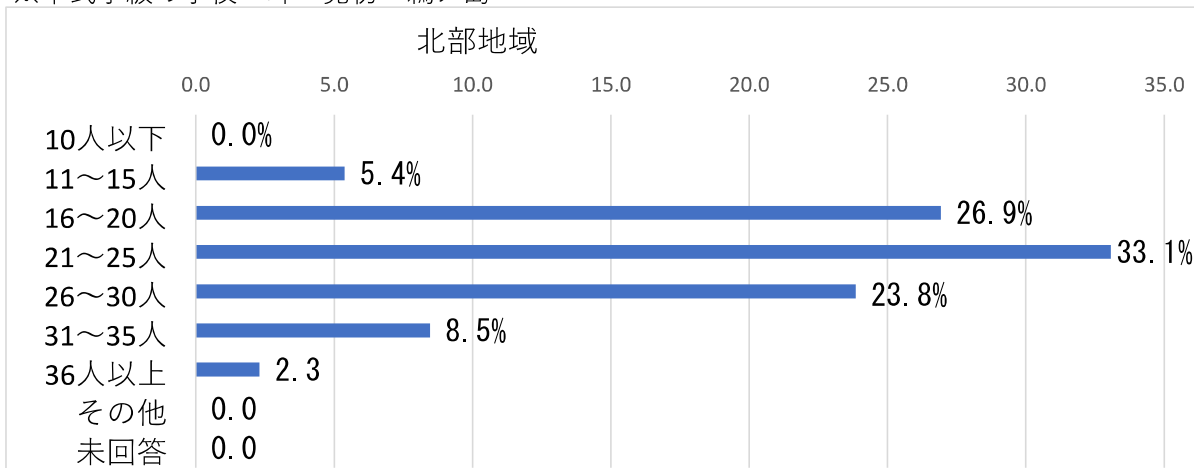
※北部地域：厚東・二俣瀬・小野・船木・万倉・吉部

小学校の規模を考えるうえで大切と思う点について、全体では「きめ細やかな教育が受けられる」「多様な考えに触れる機会が多い」「クラス替えができる」の順に高い割合を示している。「きめ細やかな授業が受けられる」については、小規模校のある地域においても同様に一番割合が高く、単式学級の学校のある市街地地域では続いて「クラス替えができる」「多様な考えに触れる機会が多い」が同程度の割合が見られる。また北部地域では続いて「多様な考えに触れる機会が多い」「学校行事で一人ひとりが活躍できる」「異なる学年同士が交流する機会が多い」が同程度の割合が見られる。

問6 あなたは、中学校の1学級の生徒数としては、何人くらいが望ましいと思いますか。



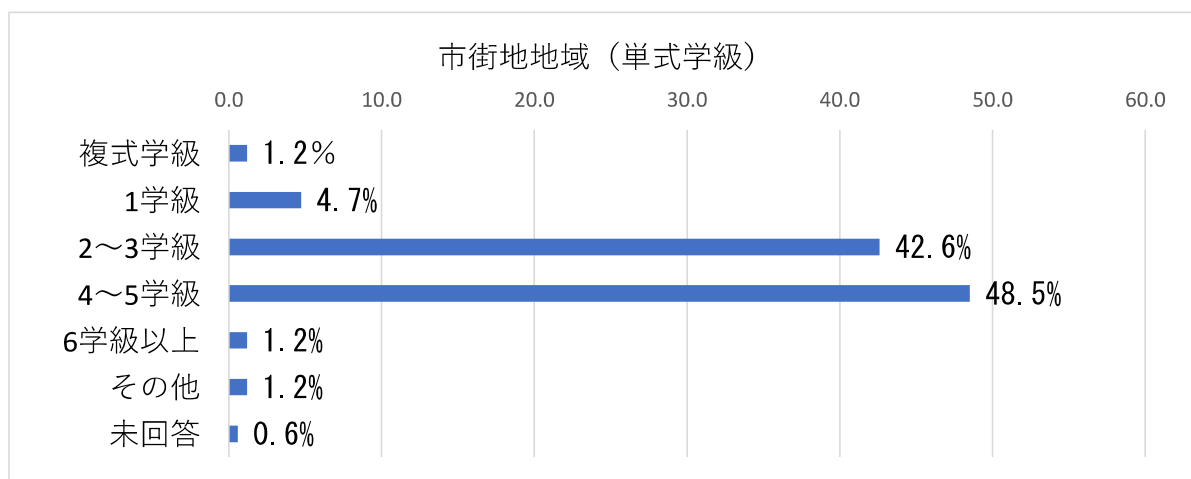
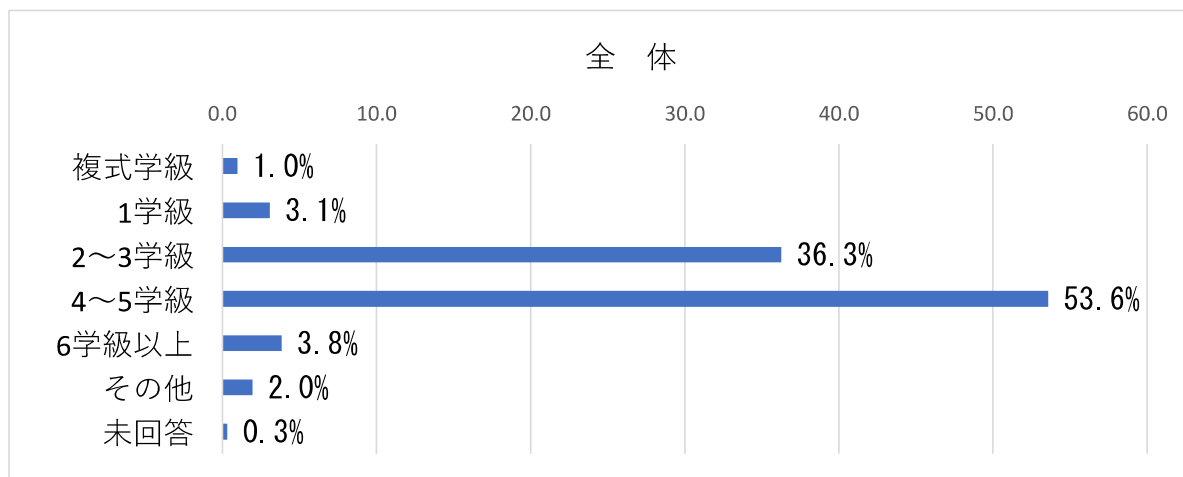
※単式学級の学校：岬・見初・鵜ノ島



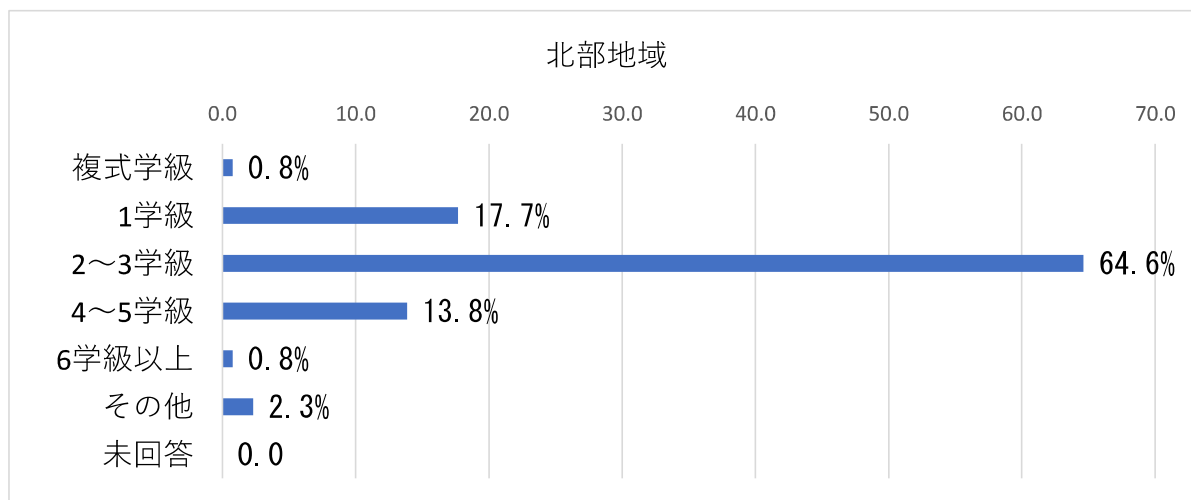
※北部地域：厚東・二俣瀬・小野・船木・万倉・吉部

中学校1学級の生徒数として全体では、26～30人が46.6%と最も多く、単式学級の学校のある市街地地域では、21～25人、26～30人が33～37%程度の割合であり、北部地域では21～25人が33.1%となっている。

問7 中学校の1学年の学級の構成としては、どれくらいが適切だと思いますか。



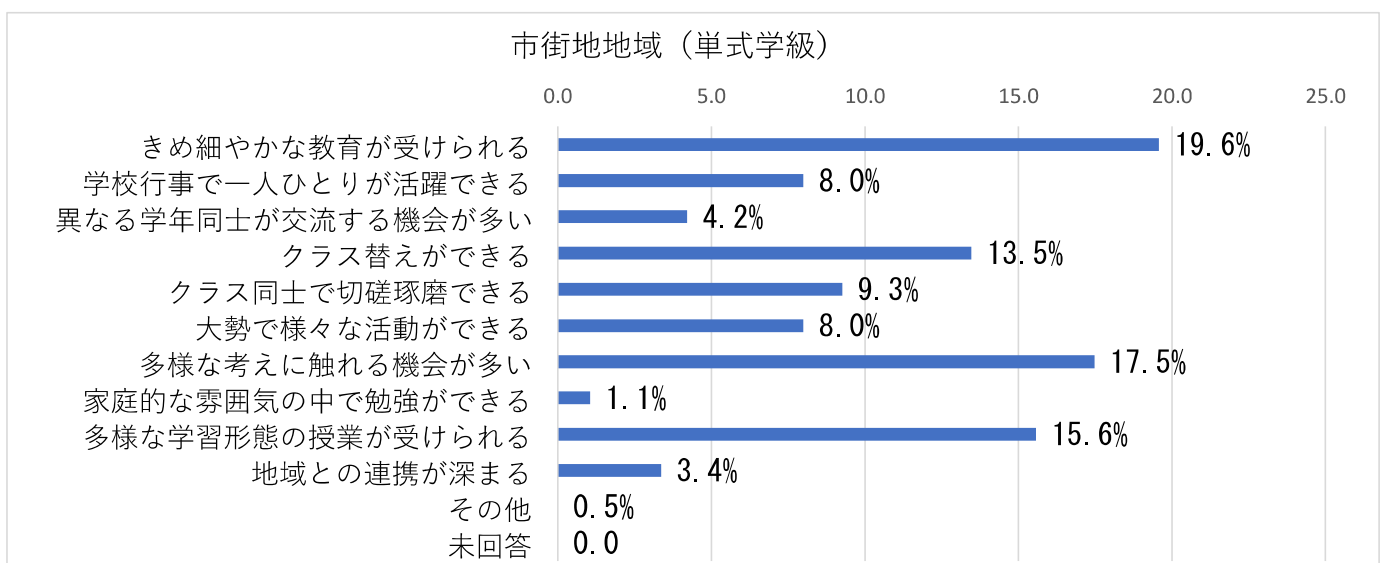
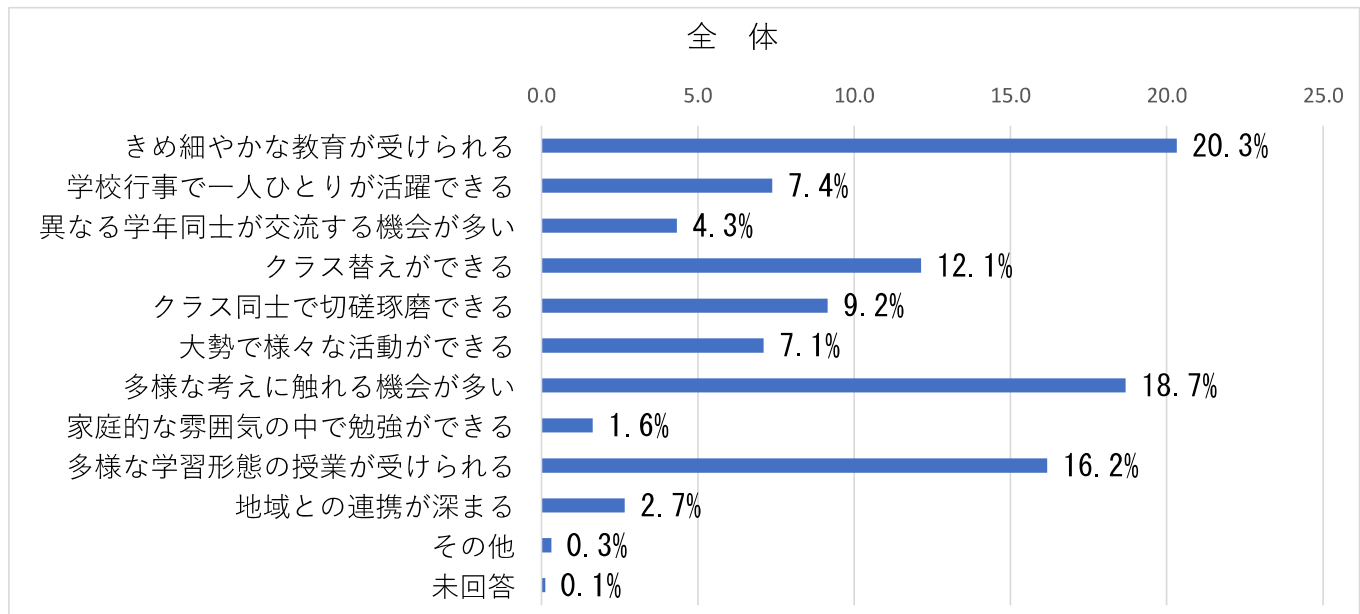
※単式学級の学校：岬・見初・鶴ノ島



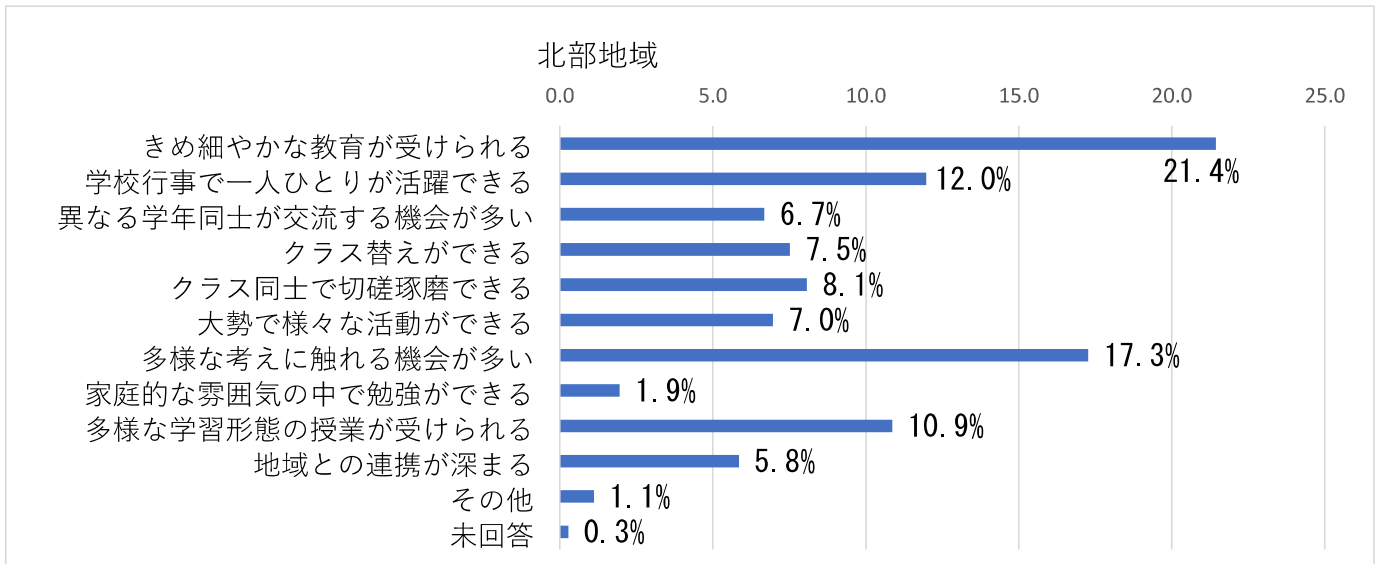
※北部地域：厚東・二俣瀬・小野・船木・万倉・吉部

中学校の1学年の学級構成としては、全体では4～5学級が53.6%と最も多く、続いて2～3学級が36.3%、単式学級の学校のある市街地地域では4～5学級と2～3学級の割合の差が少なく、北部地域では2～3学級が64.6%となり、全体や小規模学校の地域で若干差がみられるものの、4～5または2～3学級が適切な割合が高くなっている。

問8 中学校の規模を考えるうえで、あなたが大切だと思う点をお答えください(3つ以内に○)



※単式学級の学校：岬・見初・鵜ノ島

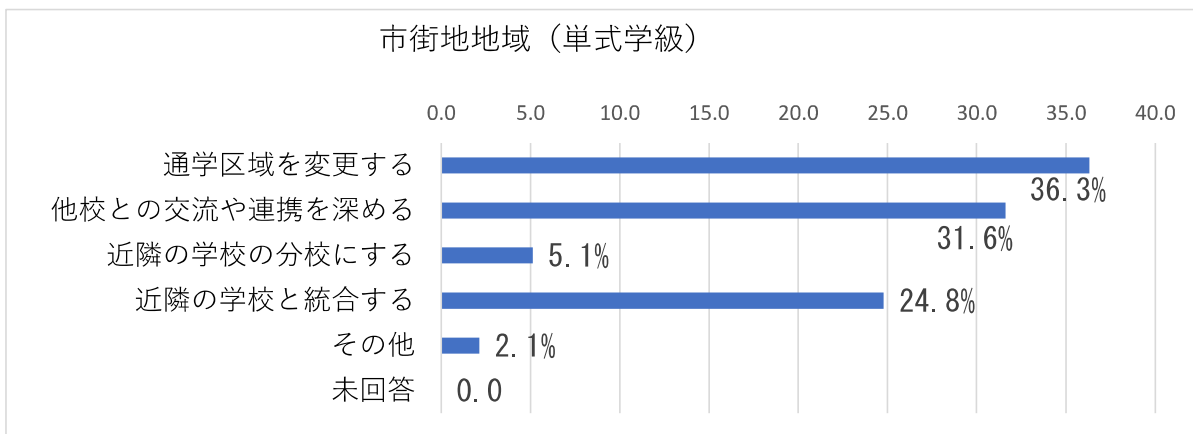
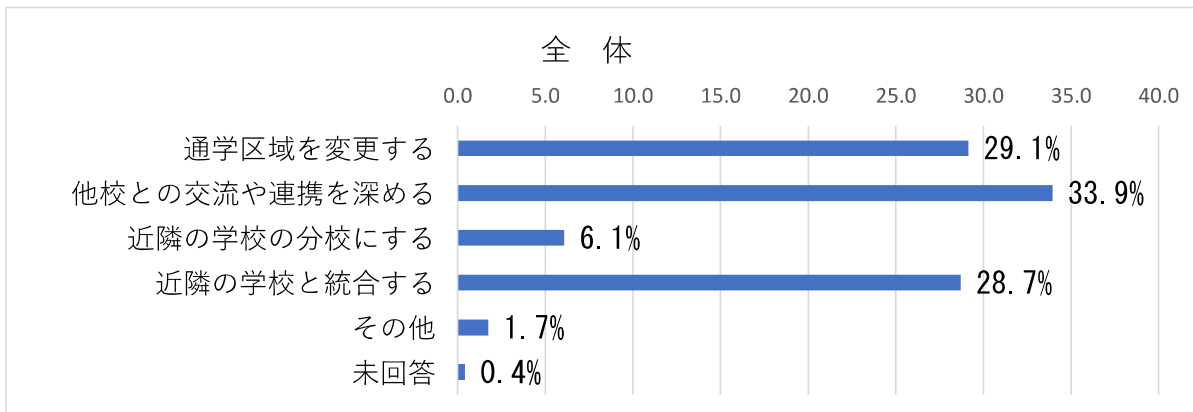


※北部地域：厚東・二俣瀬・小野・船木・万倉・吉部

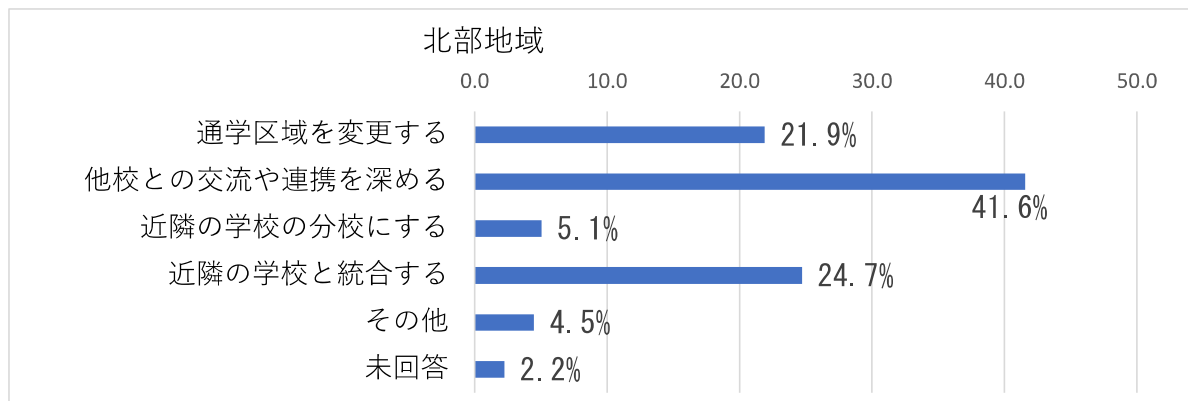
中学校の規模を考えるうえで大切と思う点について、全体においても小規模校のある地域別においても「きめ細やかな教育が受けられる」「多様な考えに触れる機会が多い」の順に高い割合を示しており、全体と単式学級のある市街地地域では続いて「多様な学習形態の授業が受けられる」が高い割合となっている。また、北部地域においては続いて「学校行事で一人ひとりが活躍できる」「多様な学習形態の授業が受けられる」が同程度の割合でとなっている。

問9 児童生徒数が少ない小規模校の対応として、どの方法が適当だと考えますか。

(2つ以内に○)



※単式学級の学校：岬・見初・鶴ノ島

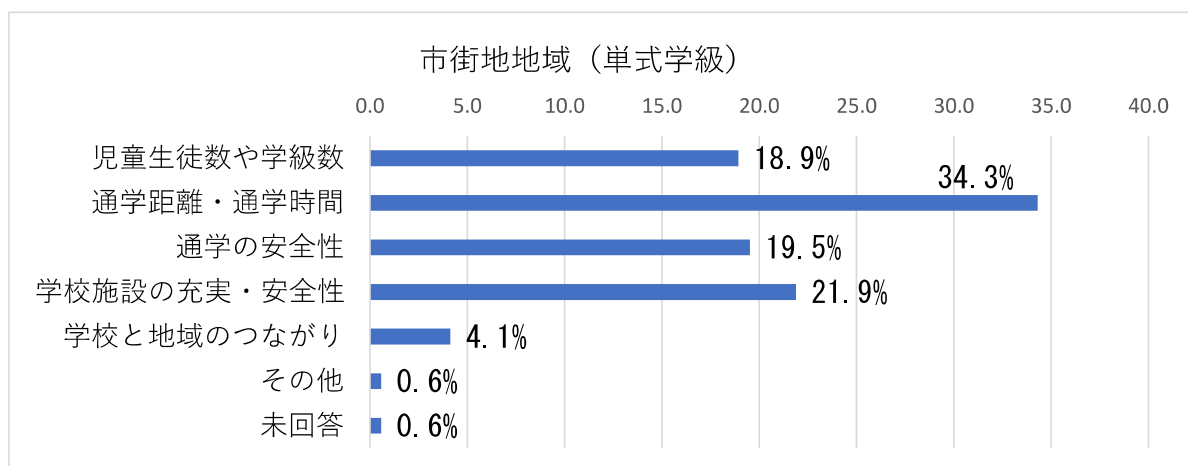
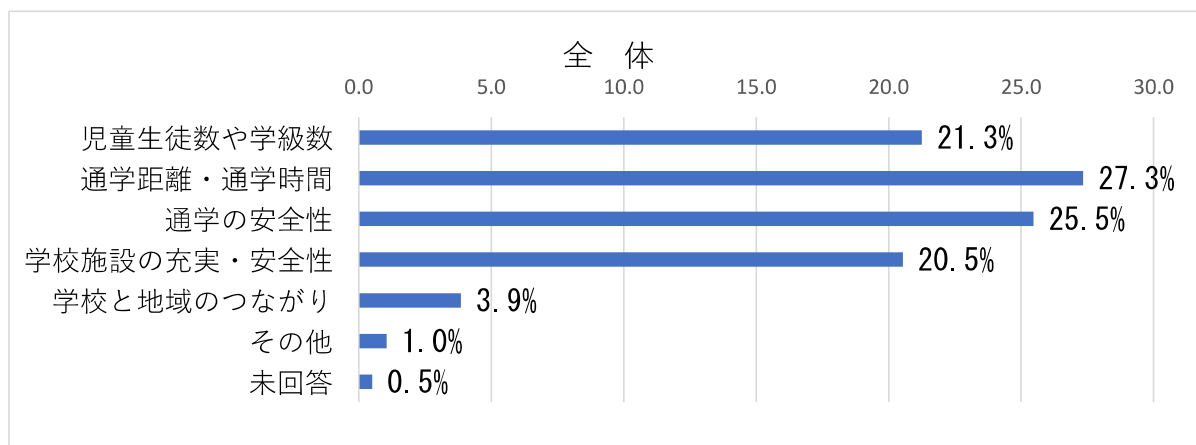


※北部地域：厚東・二俣瀬・小野・船木・万倉・吉部

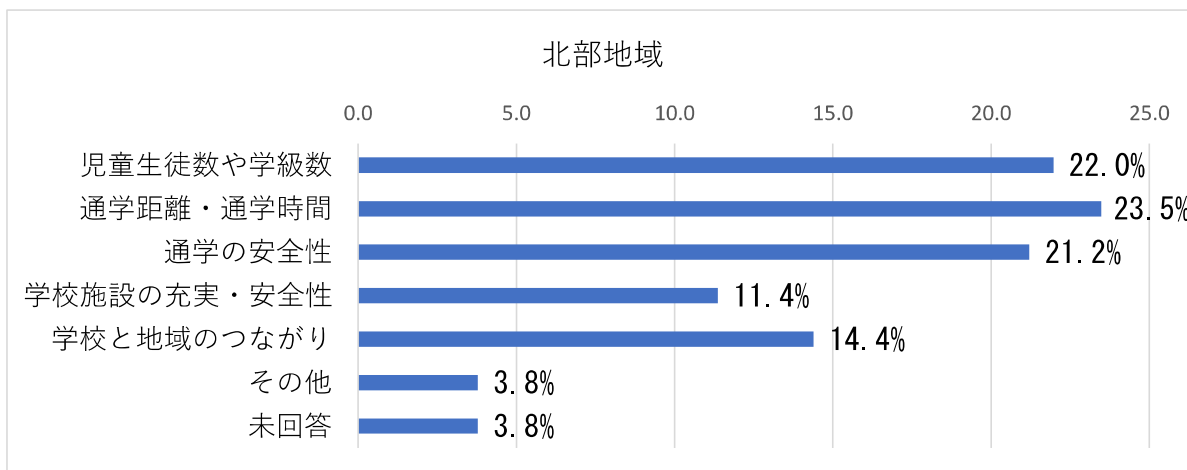
小規模校の対応として、全体では「他校との交流や連携を深める」「通学区域を変更する」

「近隣の学校と統合する」の割合が30%前後となっている。単式学級の学校のある市街地地域においては、「通学区域を変更する」の割合が高く36.3%となっている。また、北部地域においては、「他校との交流や連携を深める」の割合が41.6%と高くなっている。

問10 小学校の配置の見直しを進めるうえで、特に重視すべき点は何ですか。



※単式学級の学校：岬・見初・鵜ノ島



※北部地域：厚東・二俣瀬・小野・船木・万倉・吉部

小学校の配置の見直しを進めるうえで、特に重視すべき点として全体では、「通学距離・通学時間」

「通学の安全性」「児童生徒数や学級数」の順となっている。小規模校のある地域においても「通学距離・通学時間」の割合が一番高いが、単式学級のある市街地地域では、続いて「学校施設の充実・安全性」の割合が高くなっている。また、北部地域では、「通学距離・通学時間」「児童生徒数や学級数」「通学の安全性」が同程度の割合となっている。

市民ワークショップで出された意見
(午前の部)

◆ 1班

- ・ 近隣の学校との交流を増やす。
- ・ 学校の名称を一律にする。(一体感の醸成)
- ・ スクールバスの充実。バス通学を認める。
- ・ クラス編成は、先生の目の行き届く人数に。

◆ 2班

- ・ 自由な学校の選択ができるとうい。
- ・ 小規模の学校の子どもたちが大きな学校にも行ける。また、その逆など。そのための支援策を考えていく(就学する間の住居のレンタルなど)
- ・ 学校は各校の魅力を発信していくことで好循環となるとよい。

◆ 3班

- ・ 将来的には校区の見直しが必要になる。
- ・ 宇部市内を3つに分けて大きな学校にしてうまく回していく。
- ・ 登校する日としない日を決めて、登校しない日はタブレットを利用しリモートで授業を受けるなど。
- ・ 先生のレベルを上げる。教育のレベルを上げるため先生を育てる。

◆ 4班

- ・ 校区の変更や統廃合必要。
- ・ 先生の数が少ない。新任の先生に学童の体験をしてもらうなどもするとよい。
- ・ 学校・保護者・地域が繋がれる仕組みづくりが必要

◆ 5班

- ・ 教育予算をたくさん取る。先生方の人数増やす。
- ・ 子どもの発達面から人数を考える。先進国は25人から20人にしようとしている(目が行き届く)
- ・ 先生の労働環境の改善(部活顧問・事務仕事など)
- ・ 施設(体育館やプールなど)何校かで共有。
- ・ 通学の距離など勘案し、地域を再編成する。
- ・ 学校を自由選択制にする。
- ・ 教育目標達成のためには、地域・PTAの努力も必要

◆ 6班

- ・ 小規模校ほど地域と学校の結びつきが強い。
- ・ 違う学校に通ってみる(大規模校・小規模校の良い面・悪い面の体験)。

キーワード(まとめの中で共通したワード)

- ・ 学校間の交流(ICTの活用)
- ・ 地域との連携
- ・ 学校統合・地域の再編
- ・ 自由選択制
- ・ 専門家の活用(専門職・地域人)
- ・ スクールバスの充実(公共交通)

◆7班

- 先生が10人に1人いると充実するのでは。
- 1学年1クラスだと入れ替わりない→統合して2、3クラスになるとよい。
- タブレットの活用(保護者との書類のやり取り多すぎる。→先生の働き方改革)

◆8班

- 国際化に対応必要。
- 地域と保護者は協力したいと待っているが、学校の運営は先生中心
- 先生の労働環境の改善→新しいことやれない(先生に要望出しにくい)

◆9班

- 先生方の負担が多い。
- 1クラスは20人くらいが望ましい。
- 様々な学びの場、個人に合わせた教育ができるとうよい。

(午後の部)

◆1班

- 学校に行かなくても、授業を受けられるようにする。
- 少人数学級の良さ。

◆2班

- 学校と地域の連携(体験授業を増やす)
- 他校とのふれあい必要(他校を知ることは子どもたちにとって刺激になる)
- リモート授業の促進
- 学校の自由選択制(特色ある校風の促進)

◆3班

- 学校で楽しく学ぶためには授業の多様性必要→専門職員の配置
- 他校との交流。ICTの活用
- 地域人材の活用(もっと学校に取り込む)
- 教育面・財政面からも、学校再編は必要
- 小学校を核としたコミュニティから、中学校を中心としたコミュニティに変えていく(下関・周南など他市では進んでいる)
- 義務教育学校制度の導入
- 学校規模としては、文科省の示している学校の規模が必要。その中で少人数学級の推進

◆4班

- 適正規模を生み出す。そのためには、未来の宇部市の教育をどう考えているのか、市長・教育長の考えを聞きたい→強いリーダーシップ必要
- 先生数が不足している(労働環境の改善)→統廃合必要

- 社会性はぐくむ教育が必要（税金・社会保障・少子化の恐ろしさなど）→地域に残りたいと考える子どもたちを育てる。
- 専門の先生の活用（情報教育など）
- 地域での教育の推進→コミスクの見直し、修正必要

◆5班

- 規模の適正化。自由度のアップ→宇部市を東西南北で4校にする。統廃合の推進
- その代わりに教育環境を整える。スクーリング制の導入。ICTの活用。
- 毎日学校に行かなくてもよい→外に出て体験活動を増やす。
- 専門職の活用→学習は効率的にやりながら、地域とのかかわり増やす。地域の中で育てる。
- 学校に行きやすい環境の整備→スクールバスや、公共交通の充実。

◆6班

- 他校の授業を受けられるようにする。大規模↔小規模
- 学校の中に子どもの特性に合った居場所の提供。
- 統廃合を進めるうえでスクールバスなど、送迎システムの充実。
- 子どもの夢の実現のため統廃合進めたいうえで、部活を増やす、グローバル教育・ICT教育に力を入れる。
→外部講師による様々な授業展開

◆7班

- 学校の先生の多忙化の解消→地域の力を借りる（地域人材の活用）
- 近隣の学校間の情報の共有や授業を共同で行う。

◆8班

- 小規模校では地域との交流盛ん。学校と地域のつながりもっと深める。
- ICT（タブレット）のさらなる活用が必要
- 校区割を柔軟に。特認校制度の見直し→北部から市内へもあってもよい。
- そのためにはスクールバスの充実
- 統廃合については、子どものためになっているのか、地域とともに考えていく必要がある。